

8月20日

TMRセンター統合に向けて 施工業者等の4社を決定！



岩竹重城代表理事組合長は、12月のみわ・庄原の両TMRセンターの統合を目標に準備を進めている。

統合に向けて施設整備を行う業者選定にあたり、見積入札書開札会を開催した。

これには、池田代表監事のほか、広島県畜産課(酪肉振興グループ)の小川寛大氏、石倉典子氏の2名に立会を願った。

開札の結果、5つの入札工事区分に対して、工事施工業者4社を決定した。

今後は、これらの業者との契約手続きを経て、工事着手にあたることとしている。

TMRセンター統合に係る入札開札会
広酪本所会議室

9月13日

組合所有施設の現状を確認！ 今後の組合倉庫の在り方を検討

岩竹重城組合長は、平成25年度事業計画において、TMRセンターの統合並びに組合倉庫の運営、購買物流体制の在り方に一定の結論を見出す行動にあたることを掲げ、その検討をより迅速に行うため、検討課題にある主要な施設の役員視察を行った。これには役員10名、購買担当職員ら8名の18名が参加した。視察では庄原TMRセンター、ミルクファームHARU、みわTMRセンター、高宮ミルクボーイ、久井倉庫、福山倉庫の順に、県内広範囲に及ぶ施設を回り、現存する建物や施設、倉庫内の購買品や市乳商品の物量、地域会合等の施設の活用状況等を確認した。

役員らは、今回の視察を参考に、今後の倉庫の在り方や活用方法等を検討することとした。



視察報告(役員組合施設確認のための視察)
組合所有施設六か所

11/27~28

広酪メンバーズクラブの窓



第20回酪友フォーラム開催のお知らせ 講師は農林大臣の奥様！

西日本酪農青年女性会議主催の第20回酪友フォーラムが開催されます。ぜひご参加下さい。

- 開催日時：平成25年11月27日(水)~28日(木)
- 開催場所：山口県山口市湯田温泉3-5-8「ホテル松政」 電話083-922-2000
- 講演：(仮)「妻として母として自分自身として」
- 講師：林裕子さん(農林水産大臣 林芳正氏のご夫人)
- 参加費・申込締切等(未定)
- 問い合わせ先：事務局・事業推進課・坂田まで(電話0824-64-2072)



3M事業25・事業着手内容を決定 〜九月から役職員による現地買付〜



理事11名(欠席1名)、監事3名(欠席1名)が出席し、協議事項10項目を審議し全議案を可決承認した。主な審議内容及び決定事項は次のとおり。

協議一
生乳需要期対応酪農経営向上対策事業(3M事業25)にかかる申請希望頭数と事業着手判断

▼七月二十二日開催の第六回理事会で3M事業25「生乳需要期対応酪農経営向上対策事業」の取り組み決定事項に基づき、組合員三十九名、乳用初妊牛二百三十九頭の申請を受け付け、事業への着手を決定した。

協議一
生乳需要期対応酪農経営向上対策事業実施要領(3M事業25)第九条の定めに基づく判断

▼協議一の申請希望組合員のうち十名が、生乳需要期対応酪農経営向上対策事業実施要領(以後「要領」という)第八条第一項(上限頭数の制限)の定めに基づき、同要領第九条第五項(上限頭数を超える場合の判断)の定めに基づき審議した。

▼このうち、一部の組合員において提出書類等の不備、確認事項があることから、関係書類を整備して再度、その該当組合員に関する利用を審議することを決定した。

協議二
生乳需要期対応酪農経営向上対策事業実施要領の第三条第一項(組合役員による現地買付)への対応

▼要領第三条に基づき、役員間で調整して、現地直接買付を行うことを決定した。

▼この日程は、「ホクレン家畜市場開催日程」を考慮しつつ、原則として、牛白血病抗体検査済み地域又は過去の買付実績において抗体検査結果の陰性であった牧場(全てが検査済みでないこともありうる)を中心に選定・買付にあたることとした。

協議四
組合員からの支援要望への対応方針

▼組合員四名から酪農経営改善に関する支援要請を受けた。該当組合員においては、①既に経営改善計画の策定を終えた上で、組合に対して新たな支援要請を求める組合員、②现阶段で組合員自らが金融機関等による条件緩和措置を盛り込む酪農経営改善計画(案)を策定中の組合員もあるが、それぞれ金

融機関等の了解・同意、又は共同歩調の合意形成が図られた場合に限り、組合として債務弁済(融資未償還金額の条件緩和)の条件緩和等措置を講じる方針を決定した。

協議五 理事と組合間の利益相反取引契約の承認

▼3M事業25を申請した理事一名との契約行為に関して、理事会運営規則第七条一項の別表(役員に関する事項)に掲げる「理事と組合間の利益相反取引」の定めが該当することから、審議を行い、要領第九条に定める事業参加資格とその要件を満たすことから、理事会での承認を決定した。

協議六 監事監査指摘事項に対する回答

▼五月二十四日開催の第三回理事会では、五月八日から十日に亘り行われた監事監査による「平成二十四年度監査報告書」の提出を受け、この受理と指摘事項等に対する回答書の作成と監事会への提出を決定した。

協議七 平成二十五年度内部監査計画の策定

▼平成二十五年度内部監査計画を内部監査規程第十二条(理事会承認)に基づき、理事会で承認した。

協議八 定款第二十七条にかかる役員定数

▼役員定数に関しては、組合員数の減少や役員候補者の人選、事業運営におけるリスク管理と責任の重大さに鑑みて、定数維持と定数削減の賛否両論がある中で、これまで総務委員会や理事会、監事会等で検討を重ねてきたが、次回の役員改選に向けて、理事九名(三名減)、監事三名(一名減)の合計十二名(四名減)の役員定数案をもって、総務委員会への諮問を決定した。

協議九 今後における子会社「山陽乳業株」の在り方

▼子会社・山陽乳業株の子会社管理にあたって、同社からの三つの提案を含め、今後の子会社管理の在り方、組合側に及ぶリスクの回避策(分散)に関して、理事者の意見・提案を求め、この案件に及ぶ対応策に関して総務委員会への諮問を決定した。

協議十 貸倒引当金の引当基準

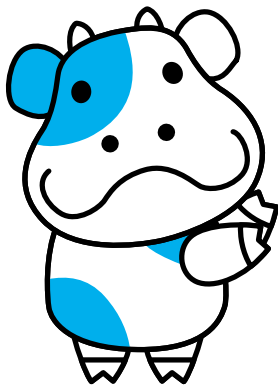
▼貸倒引当金の計上基準を定める「資産査定要領」を平成二十年十二月一日に設定し、平成二十二年四月一日からの運用をもとに決算処理を行っている。

▼要領策定にあたっては、JA全国監査機構広島県監査部並びにJA広島中央会による指導のもとに組合の経営状況等を鑑み、引当が可能な基準として債権総額の五十%の割合を理事会で定めているが、昨今の飼料価格の高騰等の影響から受託生乳販売代金の精算において、差引手取乳代が生じない組合員の増加も充分想定される中で、組合収支

を考慮し、この基準を二十五%に引き下げることも視野に入れ、総務委員会への諮問を決定した。

■報告事項

- 一 子会社「山陽乳業株」の状況
- 二 平成二十五年度生乳生産の進捗状況
- 三 TMRセンター統合に伴う事業着手状況
- 四 ラクトコーダーの導入
- 五 リース事業の事務取り次ぎ
- 六 組合員等からのクレームへの対応等
- 七 全国酪農民大会の状況
- 八 組合施設の巡回確認視察及び広酪所有施設の概要
- 九 今後の役員出席会議等
- 十 平成二十四年度生乳需要期対応酪農経営向上対策事業「3M事業24」に係る条件変更
- 十一 全日本ホルスタイン共進会(北海道会場)の開催



活性化活動助成金・地域配分額決定 地域代表者らと意見交換

酪農任意組織団体代表者会議



岩竹重城組合長は、酪農任意組織団体代表者を参集し、平成二十五年度広酪活性化活動助成金三百万円の地域配分協議と、地域における組合員の意見要望を聞き意見交換を行った。出席者は事務局を含め三十名。昨年迄は、広酪活性化推進委員との合同会議を開催していたが、組合員の減少によって、地域役員の選出に困るとの意見から、今年度は広酪活性化推進委員の委嘱は行わず、代表者会議として開催した。

組合からは、最近の酪農情勢等を含め情報・伝達事項を説明し、代表者らが四つの地域毎に集まり、平成二十五年度活性化活動助成金の地域配分額を協議し決定した。

その後は①TMRセンター統合と飼料稲(WCS)確保、②生乳生産基盤維持拡大策と良質乳出荷対策、③酪農経営所得の向上に向けた対策、④第七次中期三か年計画策定、⑤その他組合事業執行等をテーマに挙げ、各代表者から意見・要望を聞いた。

これには、「組合のTMRセンター



(活性化活動助成金の地域配分を協議する代表者ら)

の統合に対する期待と共に既に地域組織で法人への飼料稲の増産要望を行っている」、「統合に伴う導入機械が多額で維持管理費が心配」、「自給飼料利用の組合員への提案指導」、「飼料稲拡大に向けた法人へのアプローチ」、「良質生乳を生産する鳥取に比べて何が違うのか」、「地域の若者を酪農ヘルパー要員として確保」、「活性化活動助成金の減額から活動停滞が心配」等、その他TTPPや乳質検査体制等の意見・要望が挙げられ、代表理事らと意見交換を行った。(活性化活動助成金の地域配分額は次頁参照)

八月二十日 三次ロイヤルホテル

■決定した活性化活動助成金の地域配分額

地 域	任意組織団体名称	配分額(円)
備 北	庄原地域酪農振興会	299,670
	三次市酪農振興会	356,980
	東城酪農振興会	104,853
	口和町酪農組合	91,194
	西城酪農クラブ	50,759
	高野町酪農組合	55,107
南 部	賀茂地域酪農団体連絡協議会	202,178
西 部	豊平町酪農振興会	114,175
	大朝酪農振興会	65,564
	広酪西部地域組合員連絡協議会	169,201
	JA広島市芸北酪農部会	81,837
	千代田町酪農協議会	145,177
	あきたかた酪農振興会	317,649
東 部	福山地方酪農協議会	123,150
	神石地域酪農生産振興協議会	92,740
	世羅郡酪農振興協議会	213,405
	三原市酪農振興会	124,369
	甲奴郡酪農組合	391,992
合 計		3,000,000

■助成目的

各地域で組合員が組織する団体が酪農技術や経営レベル向上などの地域研修会や勉強会等の開催をもって地域活動を活発化させることに重点を置き、同団体が平成25年度において必要な活動経費の一部を助成する。

■申請方法

「平成25年度活性化活動助成金払込申請書」に必要事項を記入のうえ、平成25年9月10日(火)までに組合に申請書を提出する必要がある。

●申請受付後、組合では、平成25年9月25日(水)に指定口座に振込みする。



日々徒然
かがやき

▼二〇二〇年夏季五輪の開催都市に東京が選ばれた。

▼開催地を決める立候補都市の最終プレゼンテーションでは、日本を代表して、高円宮妃久子さまが東日本大震災の被災地支援に謝意を伝えられ、安倍晋三首相や東京都の猪瀬直樹知事らが「復興五輪」を訴えた。

▼中でも宮城県気仙沼市出身のパラリンピック女子走り幅跳び代表、佐藤真海(まみ)さんは、「五輪招致が震災復興の一翼に」との願いをスピーチに込めた。

▼大学二年で骨肉腫が見つかり、右膝下を切断。義足生活になり、真剣に打ち込めるものを探して、高校まで続けていた陸上に再会した。そして、東日本大震災では宮城県気仙沼市の実家が津波被害に遭った。この招致活動を通じて世界に訴えたのは、困難を乗り越えるたびに実感してきた「スポーツの力」だった。「スポーツは希望を与えてくれる。

▼今回の国を挙げての東京招致活動には、多くのプレゼンターが「オールジャパン」をPRし、日本の安全・安心を訴えた。とりわけスポーツ観戦を含め、「スポーツ」が私たちに与えてくれる喜びや感動は大きい。この秋、スポーツが出来る喜びを感じ、その素晴らしさを改めて実感したいものである。

人と人をつなぎ合わせてくれる。二百人以上の国内外の選手が千回近く被災地を訪れてくれた。五万人以上の子供を指導し、勇気づけてくれた。日本は、五輪のかけがえのない価値を目の当たりにした。卓越、友情、尊敬：それは言葉以上の大きな力を持つ。いま私がここにいるのは、スポーツに救われたから。スポーツは人生において大切な価値観を与えてくれたから」と堂々とした様子で最終プレゼンに臨み、万雷の拍手を浴びた。



「甲田町堆肥センター」最優秀賞 耕種農家が求める堆肥を学ぶ

堆肥共助会 八月二十七日 県立広島大学庄原キャンパス

広島県堆肥センター協議会(前原重宣会長)は、堆肥共助会と研修会を開催した。堆肥共助会では、県内二十か所の堆肥センター等からの出品があ

り、甲田町堆肥センター(安芸高田市甲田町)が最優秀賞に輝いた。

また、明治大学農学部特任教授・藤原俊六郎氏を招いた「堆肥の特性と施用効果」をテーマにおいた研修会では、「耕種農家からみた堆肥利用にあつては、堆肥に適正量の化学肥料(窒素・リン酸等)を給与することが、良好な堆肥生産につながる。これには土壌検査も重要」と述べられた。

同日開催の総会では、平成二十四年度事業報告並びに収支決算、平成二十五年度事業計画並びに収支予算案等を全て可決承認した。



(表彰を受ける甲田堆肥センターの西川博さん：写真左)

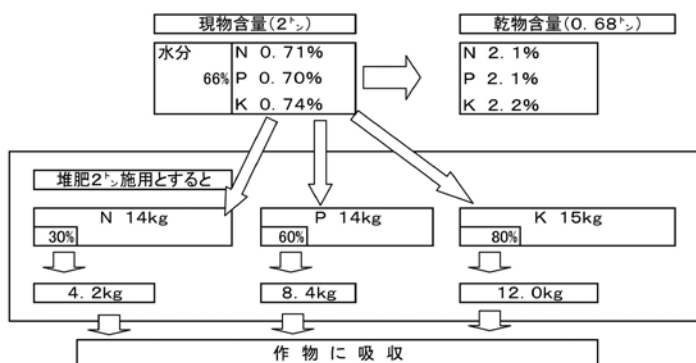
■耕種農家が求める堆肥とは!

- 一 土壤改良効果・堆肥を使うと有機物と微生物で土壤団粒構造ができ、作物の根に適した環境となる。
- 二 肥料効果・土壤診断と堆肥の分析値を照合し、改良資材・施肥量・堆肥量を決めて施肥する。堆肥を使うことでコストが抑えられる。
- 三 堆肥利用に必要な基本的条件
 - ① 堆肥腐熟度の違いが作物に影響するため、作物に障害を及ぼさない堆肥(有機酸やフアノール

- 酸性、雑草の種子を含まない)
- ② 堆肥が環境に有害でない物(ヒ素五十mg、カドミウム五mg、水銀二mg/kgの基準を超えない、作物や人体に無害)
- ③ 製品が安定している物(成分を表示し、製造管理をきちんと行い成分の安定化を図る)
- ④ 取り扱いやすい物(悪臭、高水分、形状不均一、貯蔵性、農業機械への適用性)

■堆肥の成分を利用した施肥設計の例

家畜堆肥の肥効率推定：N30%・P60%・K80%



堆肥2000kg × (N0.71% = 14kg ・ P0.70% = 14kg ・ K0.74% = 15kg)
肥効率：N14kg × N30% (N4.2kg) (P8.4kg) (K12kg) が作物に吸収される。

【堆肥2トン施肥すると化学肥料の使用量半分ですみ土壤団粒構造ができ作物がよく育つ】

